第２学年　音楽科学習指導案

１　題材名　ひょうしをかんじてあわせよう

教材名　「この空をとぼう」　　海野洋司　作詞／鹿谷美緒子　作曲

「いるかはざんぶらこ」　東龍男　作詞／若松正司　作曲

「山のポルカ」　　芙龍明子　日本語詞／チェコ民謡／飯沼信義　編曲

２　題材について

≪学習指導要領とのかかわり≫

A 表現(１)歌唱　ア　範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。

(２)器楽　ア　範奏を聴いたり、リズム譜などをみたりして演奏すること。

ウ　身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。

エ　互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

[共通事項]　ア　(ア)リズム、旋律、拍の流れ、フレーズ

（イ）反復

イ　４分音符、４分休符、８分音符、８分休符

（１）題材観

この題材は、それぞれの拍子を感じ取りながら表現したり、リズム譜などをみながら演奏したりする活動を通して、これまでに身に付けてきた拍子やリズムに対する感覚や表現の技能をさらに育てることがねらいである。これまでに学習した２拍子と３拍子の拍子の感じの違いを思い出しながら、拍の流れを感じ取って歌ったり、リズムを打ったりする活動を進めていく。また、第２学年からは共通事項イ、楽典の学習が始まる。表現の活動を通して、音符や休符の長さの違いを理解したり、リズム譜を見て演奏することに慣れ親しんだりできるようにする。

まず、「この空をとぼう」では、歌ったり、リズムを打ったりしながら、２拍子の感じを楽しく感じ取っていく。分担してリズムを打つ活動を通して、２拍子の拍の流れを感じ取らせる。また、共通事項イの４分音符と４分休符の名前と意味、書き方を覚えて、リズム譜に慣れさせていく。

次に「いるかはざんぶらこ」では、歌ったりリズムを打ったりしながら、３拍子の特徴を楽しく感じ取っていく。前次同様、分担してリズムを打つ活動を通して、３拍子の拍の流れを感じ取らせていく。

最後に「山のポルカ」では、旋律を歌詞唱や階名唱、フレーズごとに交互唱をしたり、鍵盤楽器で演奏したりする。新出の８分音符と８分休符の名前と意味、書き方を覚え、リズム譜を見ながら、リズム唱をしたり、演奏したりする。

視奏の能力、音を合わせて演奏する能力を育てることに重点を置いて展開することで、中学年からのリズムアンサンブルや器楽合奏など、さらには中学校での様々な音楽表現の充実につながると考える。

（２）児童の実態（男子１２名　女子１０名　計２２名）

本学級の児童は、朝の会や帰りの会で行う歌唱やダンス、リズム遊び、遊びうたを楽しみにしており、教室に明るい歌声や楽しい声が毎日響いている。歌うだけではあまり興味を示さない児童もゲーム性を加えることで、生き生きと取り組むようになっている。また、週２回の音楽の学習を心待ちにしている様子が見られ、音楽活動に意欲的である。実態調査でも、半数の児童が音楽の学習が大好き、残りの半数が好き、少し好きと答えている。

実態調査を領域別にみると、特に「音楽を聞くこと」が好きであることがわかった。学習中や昼の校内放送で、新しい歌や軽快なリズムの曲が流れると、体を揺らしたり、口ずさんだりしながら、それぞれに鑑賞を楽しんでいる様子が見られる。

また、前題材の「音のたかさのちがいをかんじとろう」では、音の高さを手の位置で示したり、音の階段を使ったりして、いろいろな方法で音の高さの違いを実感できるようにした。児童は音の高さの違いを感じ取りながら、意欲的に階名唱を繰り返し、音程感を身につけてきている。

一生懸命演奏したり楽しく演奏したりする一方で、友達の音や伴奏を聴き合って表現することに課題がある。

（３）指導観

本題材では、拍子を感じ取りながらリズム伴奏にのって歌ったり演奏したりすることで、音符や休符の長さを意識してリズム譜を見ながら演奏することに親しませたい。そして、友達と音を合わせて演奏しようとする意欲を育て、器楽の表現の楽しさを感じさせたい。さらに、自分や友達が担当している楽器の役割を意識し、演奏の面白さや美しさ、また、気持ちを合わせて演奏する喜びを味わえるようにしたい。

小学校低学年の器楽表現は、歌唱教材を基にして、これを発展的に扱う形で構成されることが多い。第１学年では、主な旋律と打楽器によるリズム伴奏だけで表現してきたが、第２学年では、副次的な旋律や低音などが加わって、より豊かな響きの合奏ができるようにする。それと同時に、表現の仕方も、速度や強弱に加えて音色の変化にも気を付けながら工夫していくなど、活動の範囲が広がっていく。そのことを踏まえ、身近な鍵盤楽器である鍵盤ハーモニカを用いて、合奏の中心となる旋律を演奏することに進んで取り組ませる。まだ楽譜の読めない低学年の児童には、音符の上に白ぬきされたカタカナの階名の絵譜が有効であるが、３年生からの視唱や視奏につなげるために五線譜に親しませたい。五線譜に音階を書いたものや、「どれみのたいそう」のポーズを掲示し、音の高低を視覚的に捉えさせていく。楽譜を指で指しながら歌ったり、手で高低を確認しながら歌ったりする中で、目と耳の両方から感覚的に捉えさせる。そして、鍵盤ハーモニカの難しさと考えられる、息づかい、運指、タンギングを丁寧に指導していく。少しずつの小さな進歩を大切に、第３学年からのリコーダーの指導に役立てたい。

さまざまな楽器に触れさせたいが、演奏技能の習得に効果的な繰り返しの活動は児童が飽きてしまうことが予想される。テンポを変えたり、特定の音を抜いたり、フレーズごとに分担したりして、知らず知らずのうちに何回も練習できる方法を工夫していく。合奏では、児童が各パートのバランスを感じ取れるよう、「聴く」ことができる場を設ける。友達の演奏や意見を聞くことにより、一人では気づくことができなかったことを取り入れ、演奏に生かせるようにする。そして、友達と合わ

せたり、友達の前で発表したりする活動を通して、演奏表現する楽しさや喜びを味わわせたい。器楽の活動をとおして共通事項を身に付けさせることで、音楽を特徴づけている要素が生み出す音楽の面白さ、美しさを感じ取れるようにしていく。また、音楽にかかわる用語について、名称や意味だけでなく、表現及び鑑賞の様々な活動の中で用いることができるようにしたい。

３　題材の目標

・拍子を感じ取りながら、リズム伴奏にのって歌ったり演奏したりする。

・リズム譜に親しみ、簡単なリズムを演奏する。

４　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度(関)	音楽表現の創意工夫（創）	音楽表現の技能(技)
①　範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②　拍子を感じ取りながら、歌に合わせてリズム伴奏を打つ学習に進んで取り組もうとしている。	①　音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の気分を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いをもっている。	①　リズム譜を見て、拍の流れを感じ取って楽器で演奏している。 ②　フレーズを生かして鍵盤楽器を演奏している。 ③　２拍子の拍の流れやフレーズを感じて、旋律とリズム伴奏を合わせて演奏している。 ④　友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせて合奏している。

５　研究の視点について

【視点２】小中連携を関連させた題材構成(指導計画)

学習指導要領１目標は、低学年では「楽しくかかわり、興味関心をもつ」、中学年では「進んでかかわり、意欲を高める」、高学年では「創造的にかかわる」中学校では、「興味・関心を養う」「生涯にわたって音楽に親しんでいく」というように、発達段階に応じた目標になっている。また、２内容Ａ表現(２)器楽の活動は、以下のようになっている。

	低学年	中学年	高学年	中学校　第１学年	中学校　２・３学年
聴奏・視奏の能力	範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして演奏すること。	範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。	範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。		

楽曲に合った表現の能力	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。	音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。
音を合わせて演奏する能力	互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	互いの楽器の音や副旋律的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	声部の役割と全体の響きとかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

これをうけ、小中学校の指導内容の系統を踏まえながら、発達段階に応じて学習指導をしていくことで、生涯にわたって音楽を楽しむことができる児童・生徒の育成をしていく。

6　題材の指導計画及び評価計画（８時間計画）

次	時	○学習内容　・主な学習活動　［共通事項］	◆　評価規準　（評価方法）
第１次	ねらい　２拍子を感じながら、(ウン)タン・タン(ウン)のリズムを打つ。 教材　「この空とぼう」		
	1	○拍のまとまりをとらえながら歌う。　［拍の流れ］ ・　指で拍打ちし、拍子を感じながら、範唱を聴く。 ・　２拍子の拍の流れを感じ取って歌う。 ○２拍子の拍の流れを感じ取ってリズム打ちをする。　［リズム、拍の流れ］ ・　タン（ウン）や（ウン）タンのリズム唱をする。 ・　手拍子や膝打ちなどで、リズム打ちをする。 ・　歌に合わせて２拍子のリズム打ちを工夫する。	◆　範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 （関心①行動観察、演奏観察）
	2	○２拍子の拍の流れを感じ取りながら、リズム譜を見て打楽器で演奏する。 ［リズム、拍の流れ、フレーズ］ ・　４分音符と４分休符を学習し、リズム譜を見てリズム唱をする。 ・　二人一組になり、上下段のリズムを分担して、リズム打ちの練習をする。 ・　終わり方を工夫する。 ・　歌に合わせてリズム伴奏をする。	◆　リズム譜を見て、拍の流れを感じ取って楽器で演奏している。 （技①演奏聴取）

<table>
<tr><td rowspan="3">第2次</td><td colspan="3">ねらい　３拍子を感じながら、(ウン)タンタン、タン(ウン)(ウン)のリズムを打つ。
教材　　「いるかはざんぶらこ」</td></tr>
<tr><td>1</td><td>〇拍のまとまりをとらえながら歌う。　［拍の流れ］
・　範唱に合わせて体を揺らしたり、指で拍打ちして拍子を感じながら聴いたりする。
・　３拍子の拍の流れを感じ取って歌う。
〇３拍子の拍の流れを感じ取ってリズム打ちをする。　［リズム、拍の流れ］
・　タン(ウン)(ウン)や(ウン)タンタンのリズム唱をする。
・　手拍子や膝打ちなどで、リズム打ちをする。
・　歌に合わせて３拍子のリズム打ちを工夫する。</td><td>◆　範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。
（関心①行動観察、発言内容）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>〇３拍子の拍の流れを感じ取りながら、リズム譜を見て打楽器で演奏する。
［リズム、拍の流れ、フレーズ］
・　二人一組になり、上下段のリズムを分担して、リズム打ちの練習をする。
・　強拍と弱拍にふさわしい音色の楽器を選んでリズム伴奏を工夫する。
・　歌に合わせてリズム伴奏をする。</td><td>◆　リズム譜を見て、拍の流れを感じ取って楽器で演奏している。
（技①演奏聴取）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第3次</td><td colspan="3">ねらい　２拍子を感じながら、ウタタン・タンウンとウタウタ・タンタンのリズムを打つ。
題材　　「山のポルカ」</td></tr>
<tr><td>1</td><td>〇拍のまとまりをとらえながら聴く。［拍の流れ］
・　指で拍打ちし、拍子を感じながら、範唱を聴く。
・　２拍子の拍の流れを感じ取って歌う。
・　フレーズごとに階名で交互唱をする。
・　旋律を通して階名唱をする。
〇２拍子の拍の流れを感じ取りながら、リズム譜を見て打楽器で演奏する。
［リズム、拍の流れ、フレーズ］
・　８分音符と８分休符を学習し、リズム譜を見てリズム唱をする。
・　手拍子や膝打ち、足などを使って、リズム打ちをする。
・　二人一組になり、上下段のリズムを分担して、リズム打ちを練習する。
・　リズム譜を見て、打楽器でリズム伴奏をする。</td><td>◆　拍子を感じ取りながら、歌に合わせてリズム伴奏を打つ学習に進んで取り組もうとしている。
（関②行動観察、演奏観察）</td></tr>
</table>

	2	○フレーズを感じ取って、旋律を楽器で演奏する。 ［旋律、拍の流れ、フレーズ］ ・　旋律の階名唱をする。 ・　運指を確認し、２組に分かれて、鍵盤ハーモニカで分担奏をする。	◆　フレーズを生かして鍵盤楽器を演奏している。　（技②演奏聴取）
	3（本時）	○フレーズを感じ取って、旋律とリズム伴奏を合わせて演奏する。　［リズム、拍の流れ、フレーズ］ ・　鍵盤ハーモニカ１、鍵盤ハーモニカ２、リズム伴奏上、下を練習する。 ・　楽器による旋律と、リズム伴奏を合わせて演奏する。	◆　２拍子の拍の流れやフレーズを感じて、旋律とリズム伴奏を合わせて演奏している。 （技③演奏聴取）
	4	○フレーズを感じ取って、互いの音を聴き合いながら、表現の工夫をする。 ［リズム、拍の流れ、フレーズ］ ・歌、鍵盤ハーモニカ１、鍵盤ハーモニカ２、リズム伴奏上、下のバランスを考える。 ・歌や楽器による旋律と、リズム伴奏の音色や音量のバランスを聴き合いながら、合奏する。	◆　音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の気分を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いをもっている。 （創①行動観察・演奏聴取） ◆　友達の楽器の音を聴きながら、自分の音を合わせて合奏している。 （技④演奏聴取）

７　本時の学習（７／８）

（１）目標

○２拍子の拍の流れやフレーズを感じて、リズム伴奏する。

○旋律とリズム伴奏を合わせて、合奏を楽しむ。

（２）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり　◆評価規準（評価方法）
3	1　「いるかはざんぶらこ」を歌詞唱したり、タンブリンやカスタネットを使ってリズム打ちしたりする。	○　曲の感じを大切に、３拍子の流れを感じて軽やかに歌ったり、楽器でリズム打ちしたりできるようにする。
3	2　２拍子の拍の流れを感じながら、「山のポルカ」を歌詞唱したり、リズム譜を見てリズム打ちしたりする。	○　拍子を確認する。 ○　リズム譜を掲示する。 ○　８分音符、８分休符、４分音符、４分休符の確認をする。

5	3　フレーズを感じ取って、「山のポルカ」を階名唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	○　旋律パート譜を掲示する。 ○　各フレーズが第３指から始まることを確認する。 ○　分担奏でもよいことを伝える。
3	4　範奏を聴き、どんな感じがするか考える。 ・楽しい感じがするね。 ・鍵盤ハーモニカと打楽器を一緒に演奏している。	○　「こんな演奏をしてみたい。」という思いや意欲が持てるようにする。
	5　本時の目標をつかむ。「山のポルカ」を２びょうしにのって、あわせよう。	
10	6　７～８人グループに分かれて、どうすれば拍の流れにのった合奏になるか、アドバイスし合いながら練習する。 ・演奏の始めに合図を出そう。 ・同じ速さで演奏しよう。 ・ウンはみんなで休もう ・タンブリンをきいてから、カスタネットを打とう。 ・タンブリンをきいて合わせよう。 ・鍵盤ハーモニカをきいて合わせよう。 ・みんなの音をきいて合わせよう。	○　意欲的に活動できるように、グループで気を付けたことを練習後に発表することを伝える。 ○　鍵盤ハーモニカ１、２、リズム上、下の４パートに分かれること、全員が旋律パートとリズム伴奏パートに挑戦することを確認する。 ○　「きき役」を作ると、全体の音を聴きやすいことを伝える。 ○　グループ毎に指導しながら、発表する代表グループを１つ決める。 ○　拍の流れにのることが難しい児童には、リズム唱や階名唱、リズム打ちで支援する。
10	7　代表グループの発表を聴き、良かったところを伝え合う。また、自分のグループがあわせるために気を付けたことを発表する。 ・鍵盤ハーモニカの音が大きくて合わせやすい感じがしました。 ・音楽に合わせて体がゆれていました。 ・友達の方を見て演奏すると合う感じがしました。	○　代表グループは発表する前に、どんなことに気を付けて練習したかを説明するように促す。 ○　聴くグループは、代表グループが気を付けたことを意識して聴くように助言する。 ○　児童が気付かなかった良いところを取り上げ、意欲につなげる。
8	8　他のグループの工夫を自分たちの演奏に取り入れて練習する。	○　次時の予告を兼ね、歌と合わせたり、グループごとに発表したりすることを伝え、意欲をもてるようにする。 ◆　２拍子の拍の流れやフレーズを感じて、旋律とリズム伴奏を合わせて演奏している。（技④演奏聴取）
3	9　ふりかえりをする。	○　ふりかえりカードに本時の自己評価を記入する。